

別 記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

年 月 日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)

東京都港区虎ノ門四丁目1番1号

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)

森トラスト株式会社

代表取締役社長 伊達 美和子

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項

第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例

第26条第1項

第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、

事業者行動計画を 策定 (変更)

事業者行動報告書を作成

したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達 美和子
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	東京都港区虎ノ門四丁目1番1号

1 事業所の概要

事業所の名称	琵琶湖マリオットホテル					
事業所の所在地	滋賀県守山市今浜町十軒家2876					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	7	5	1	1	旅館,ホテル
事業の概要	ホテルの運営					
従業員の数	110	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	☒ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	2	台	熱源設備	2	台
	コンプレッサ	16	台	空気調和設備	31	台
				照明設備	5,598	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2024	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

私たち琵琶湖マリオットホテルは、「心地よい空間と快適なサービス」を皆様に提供し、品質の向上に努めております。同時に、地域に根ざした環境保全活動を通じて地域の方々とコミュニケーションを図り、環境型社会の構築に寄与して参ります。

1)事業活動を通じて、環境負荷を最小限にする仕事の仕組みを作り、環境の保全と汚染の予防に取り組んで参ります。

①環境に配慮した商品の提供に 努めます。

②省エネルギー・省資源に取り組めます。

③廃棄物の削減と再資源化に取り組めます。

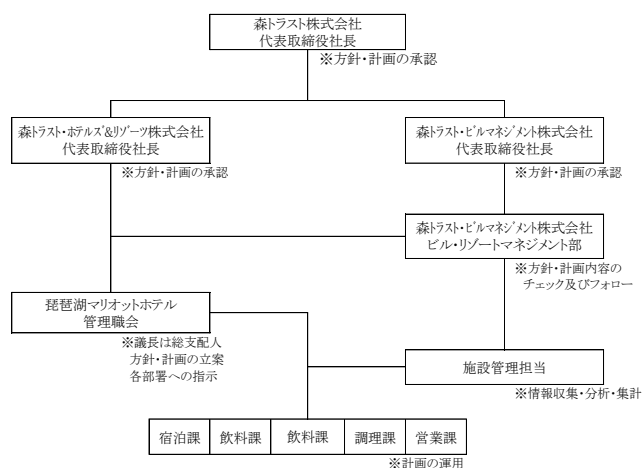
2)事業活動を通じた環境保全活動を定期的に見直し、継続的な改善に努めます。

3)環境保全に関する法規制及び、当社が受け入れを決めた要求事項を遵守します。

4)この方針を具体化し維持すると共に、全従業員に周知致します。

2 取組の推進体制

○責任者 森トラスト株式会社 代表取締役社長 伊達美和子

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

これまで、下記の項目を中心とした省エネルギーの取り組みを行ってきました。

1)冷暖房の設定温度を緩和し、空調負荷の低減

2)設備機器の更新(人感センサー付浴槽濾過機、冷却塔充填材更新など)

3)ホテル内各所照明のLED化

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	テニスコートLED化工事(未了箇所)	2024年度	
2	設備導入	館内LED化工事	2024年度	
3	設備導入	熱源設備更新検討	2024～2026年度	
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
コロナ禍の影響が回復してきたため、23年度のエネルギー使用量はコロナ以前の水準となりました。 2024年度以後の目標設定は2023年度の原油換算エネルギー使用量を基準に、「原単位で毎年前年度比1%減」とし、引き続き熱源設備の更新に加え運用対策の徹底を実施します。 原単位設定の考え方は以下の通り。 温室効果ガスの排出量は稼働率に左右されるため、 $\text{稼働面積}(\text{m}^2) = \text{共用部面積}(\text{m}^2) + \text{客室面積}(\text{m}^2) \times \text{稼働率}$ を分母に設定。(基準年度の2023年度の稼働率は0.493)	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	1,568					
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	3,404					
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	3,404					
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0					
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		0.1162					

備考 「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	電気契約について、再生可能エネルギー由来のプランを検討中。
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh						
上記のうち自家消費量	kWh						